

予算

一般会計予算 176億9000万円

(前年度 167億8000万円)

☆心かよう福祉のまちをつくる

☆都市基盤の整った快適で潤いのあるまちをつくる

☆のびやかな子どもを育むまちをつくる

平成22年度鶴ヶ島市一般会計予算及び特別会計予算6議案は、所管の常任委員会に付託され、審査されました。
委員会での審査結果は、いずれも『可決すべきもの』で、最終日の本会議において採決の結果、可決されました。

人件費

Q 21年度の退職職員数と22年度採用予定職員数は。

A **人事課長** 21年度の退職等職員数と22年度採用予定職員数は、共に8人である。

Q 職員数を大幅に削減する方針とのことだが、今後の人事の方向性は。

A **人事課長** 今後、定年退職者が毎年多く見込まれ、職員数は減少していく状況である。財政的に厳しい中で、業務の効率化や組織の見直し等を図り、職員数を増やさず対応できるような運営について検討していきたいと考えている。

コミュニティレストラン事業

Q 事業の内容について。

A **社会福祉課長** この事業は、埼玉県ふるさと雇用再生基金市町村事業費補助金を活用し、鶴ヶ島市学童保育の会が委託を受け、東公民館近くにあるレストランを借り上げて、地域の触れ合い、支

え合いの場を提供しているものである。

Q 予算額681万9000円の内訳について。

A **社会福祉課長** レストランで働く人の人件費で、正規職員1名と臨時職員3名を雇用するものである。



コミュニティレストラン「ここほっと」

共栄一本松線

Q 現在の用地交渉の状況と今後の予定について。

A **道路建設課長** 現在の用地買収率は43・7割で、今後、用地買収を23年度までに完了させ、24年度末の供用開始を目指している。

母子保健事業

Q 乳幼児健康診査の受診の状況と未受診者への対応は。

A **保健センター所長** 20年度の受診率は、4か月児健診が92・5割、1歳6か月児健診が92・1割、3歳児健診が87・7割であった。

未受診者へは、再度受診の勧奨を行うとともに、個別に訪問する等の対応を行っている。



子ども医療費助成事業

Q 21年度予算に比べ900万円減額した理由は。

A **子ども支援課長** 21年度の登録者が、20年度と比べて減っているため、減額をしたものである。

Q 窓口払いをなくすための準備状況は。

A **子ども支援課長** 窓口払いをなくすためには、坂戸市及び

坂戸鶴ヶ島医師会等との調整が必要となってくるため、今後も引き続き調整していきたいと考えている。

施設使用料

Q 条例改正に伴う施設使用料の増額の見込み額は。

A **財政課長** 22年度予算では、1349万2000円の増額を見込んでいる。

障害者就労支援事業

Q 事業内容について。

A **障害者福祉課長** 障害者の一般就労の機会の拡大と、安心して働き続けられるように地域で就労と生活の支援を総合的に行うため、障害者就労支援センターを設置するものである。

具体的な支援内容は、職業相談、就職準備支援、職場開拓、職場実習支援及び定着支援等を行っていると考えている。

公共施設保安管理事業

Q 市建築物の耐震化の進捗状況について。

A **建築課長** 耐震化率は、小・中学校体育館については、現在耐震診断を行っているため38割、教育センターは0割、その他市庁舎、小・中学校校舎、公民館については、100割となっている。